

蛤御門

この門の蛤御門という名前は、御所内の邸宅の多くを炎上させた大火にちなんでいます。火が燃え盛ったとき、焼きはまぐりが口を開けるようにこの門が開き、それによって御所の住人たちが外に逃れることができたといいます。

この門は禁門の変（別名蛤御門の変）の舞台としても有名です。1864 年、江戸時代の終わり頃に、尊王攘夷派、すなわち天皇のもとに政治的実権を取り戻し、外国人を排斥しようとする思想の信奉者たちが反乱を起こし、御所に押し入ろうとしたのです。現在でもこの門の風化した梁には、反逆者達が退けられたときに起こった戦闘の際の銃弾の跡を見ることができます。